（第１号議案）

2020 年度事業報告書（案）

１、全体の報告（成果と課題）…16
２、事業報告…17
　A　ボランティアセンター…17
　B　フードバンク宇都宮…19
　C　災害救援…22
　D　NPO活動推進センター…25
　E　とちぎコミュニティ基金…29
　F　県北Ｖネット…34
３、その他の事業…36
４、財政・組織運営…36

１．全体の報告（成果と課題）

①コロナの功罪―困窮者の増加と「助け合い意識」の拡大

コロナ禍で非正規の労働者が失業し困窮者が増えた。半面、「助け合い意識」も芽生え、フードバンク（以下FB）や子ども食堂など困窮者支援の活動が活発化した。ボランティアは 20 人（ＦＢ8 人、Ｖネット 12 人）の増加、寄付はＦＢで 298 万円、チャリティウォーク県北で 214 万円となり、ＦＢ食品寄付も 36.7ｔと昨年費の 3.6 倍になった。

②あってよかったフードバンク。「私たち自身によるセーフティネット」として機能

１３年前のリーマンショックで、本会（日本）では困窮者の救済ができなかった。これを教訓に「今後の経済不況での失業者の救済」のためにＦＢを構想したが、今回のコロナ禍でフードバンクは「困窮者と助けたい人」を結びつける受け皿となり政府が機能してなくても、「私たち自身によるセーフティネット」として機能したことを証明した。また、相談援助機能があるＦＢは全国でもほぼ唯一であり、大学と連携して統計データを素早くモニタリングし情報発信したことにより、マスコミから注目され行政等へのアドボカシーになった。ＦＢ県北も困窮者支援、定期配布会の開始、チャリティウォーク県北 18 など活発に活動した。利用者からは**「フードバンクがあって助かった」**といわれている。

③とちぎコミュニティ基金の伸張―コロナ禍での寄付の拡大

とちコミの寄付は**前年比 1.57 倍の 1,870 万円**となり大幅に増加した。これは、コロナで苦境のＮＰＯの新たなコロナ対策プログラムのため**がんばろう栃木！コロナ支えあい基金**を開始し**７６０万円**を集めた。時機を得た素早い企画・実施により、今までとちコミに寄付をしていない人や企業から多額の寄付金を集め活動団体に分配することができた。また、サンタ de ランはコロナで活動が制限されることから、企画を大幅に変更したことや、高校生・大学生によるファンドレイジングなどの創意工夫があった。寄付月間の全国大賞の１位（196 団体中）となり表彰された。

④新人職員の採用と若手（ボラ）スタッフの増加

本会でラジオやインターンをした学生を新卒職員として採用し、長年の課題だった職員の高齢化に歯止めがかかった。さらに若い職員がいることで学生・若者ボランティアチーム「V レンジャー」や「泉が丘おたすけ隊」FB 学生ボランティアなどが活性化し、若者ボランティアが 24 人になった。今後は、若手職員や若者ボランティアチームの研修とボランティア・コーディネーションが必要になっている。

⑤休眠預金の資金分配団体になる。新たな栃木の活動推進の仕組み

前期年度末に、日本民間公益活動連携機構（ＪＡＮＰＩＡ）の「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」の資金分配団体として応募し、本会・とちぎコミュニティ基金が採択された。今期 2900 万円を配分する計画である。

本会だけでは、休眠預金事業の事務局運営ができなかったため、ＮＰＯ法人とちぎユースサポーターズネットワークと協働して運営を行っている。休眠預金事業の実施で、栃木県内のＮＰＯや市民活動にあらたな財源と伴走支援のしくみができることになった。

⑥フードバンクの総合相談の増加とスタッフの疲弊

コロナ禍でＦＢに来る**困窮者も昨年比 1.35 倍の 495 人**になった。この事態に相談支援のスタッフ（職員・ボランティア）の人数・能力が追いついていない。長期化・複雑化したケースには継続的な相談支援が必要であり、専従職員の負担が大きくなっている。

また、ＦＢからの出口の開発が必要である。そのためには中間的就労事業所が多数必要であり、それらをネットワーク化する中間支援機能が求められている。こうした課題を解決するために、ふれあいコープ、とちぎコープ等と**ユニバーサル就労研究会**を実施し、今期には活動を開始する方向になった。

⑦「対面活動」での県北Ｖネットの活動の停滞

年度当初に新拠点に引越しして活動を開始したが、コロナ禍で子ども食堂、地域サロン、学習支援など「対面活動」が思うようにできなかった。「無料配布会、相談支援つき定期配布会もできたＦＢ県北」とは対照的である。地域のボランティアも、子ども食堂利用者も、積極的に宣伝ができず人が集まらない状況が続いた。いまだに子ども食堂、学習支援も通常の開催とはなっていない。コロナ禍で苦境が続いている

２．事業報告

Ａ.【ボランティアセンター】

(1)総合相談事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

ボランティアしたい希望者に活動の場を紹介し、「ボランティアの応援求む」ＳＯＳニーズに対応するため需給調整をし、困難ケースは解決を図った。個別ＳＯＳの解決は「総合相談支援センター」が担っている。

①総合相談支援センターの運営

総合相談支援センターは、ＦＢうつのみやでのＳＯＳ対応とその後の生活支援、さらに若者支援や社協の困窮者自立支援事業からの依頼ケースに対応するため本会が行ってきた**「個別のＳＯＳに同行支援する方法」**を全面的に公開して実施した。この事業ではボランティアの個別性・柔軟性を最大限に活用することが、これからの地域福祉推進に必要な能力と考える。

【表1　相談者の状況のまとめ】

	のべ（回）	月平均（回）	実数（件）	内複数回支援（件）	宇都宮市内/市外（　）は住所不定	世帯の人数	男/女
2012 年度	30	2.5	30	5	19(9)/11(1)	単身:23、２人:5、３人以上:2	22/８
2013 年度	75	6.25	46	11	32(10)/14(1)	単身:27、２人:14、３人以上:5	28/18
2014 年度	196	16.08	135	25	72(47)/16	単身:101、２人:11、３人６、４人:3、５人:5、６人:1、７人:3、10 人:1	106/29
2015 年度	243	20.25	165	49	102(11)/65(25)	単身:140、２人:25、３人:11、４人:7、５人:6、６人:4、８人:1	118/47
2016 年度	350	29.8	185	49	144/18(23)	単身:126、２人:33、３人:10、４人:10、５人:３、６人:１、７人:1、10 人１	124/61
2017 年度	572	47.7	248	182	177/15（29）	単身:158、２人:35、３人:11、４人:11、５人:6	160/61
2018 年度	685	57.1	304	159	272(32)/32(20)	単身：218、２人：49、３人：19、４人：9、５人：4、６人：4、７人以上：1	217/87

2019年度	828	69.0	366	177	327(25)/39(7)	単身：271、2人：51、3人：26、4人：13、5人：3、6人：2、 7人以上：0	261/105
2020年度	1298	108.2	495	247	446(29)/49(10)	単身：368、2人：74、3人：36、4人：10、5人：4、6人：0、 7人以上：3	340/155

【全世帯】495世帯　　―2020年度―
●主な困窮の内容（複数）：仕事探し・失業・就職 363、　病気・健康・障害 62、　住居 5、　金銭管理・所持金無し 58、　精神疾患・人間関係など 54、　日々の生活(低年金)299、　債務（家賃滞納など含む）98、　子育て・介護 19、　DV・離婚など 24
●生活保護の世帯数：　受給利用中：23、　手続き中：29
●本会までの経路：　自治体（生活福祉課・子ども家庭課・保健所など）160、　社協（県内社協含む）95、　宮ハローワーク 15、　地域包括支援センター19、　ＮＰＯ2、　ネット・テレビ 17、　その他 96

【住居なし】39世帯
●男女比は、男 35：女 4　単身 39 世帯
●年齢　10 代 0、20 代 7、30 代 4、40 代 11、50 代 10、60 代 6、70 代 0、80 代以上 1
●困窮の内容（複数）仕事探し就職 8、ホームレス 19（うち車上生活 2, 移動中 4）、住居 1、精神疾患・人間関係 5, 収入生活費・低年金 4、病気・健康 3、離婚 1、孤立 3

【女性相談者】155世帯
●単身 84/世帯持ち 71（内、母子家庭 2-子育て世代 2）
●困窮の内容（複数）：ＤＶ離婚など 5、病気・精神疾患 41、仕事探し・失業 3、金銭管理不能・債務 23、DV1、無・低年金 1、子育て・介護 1

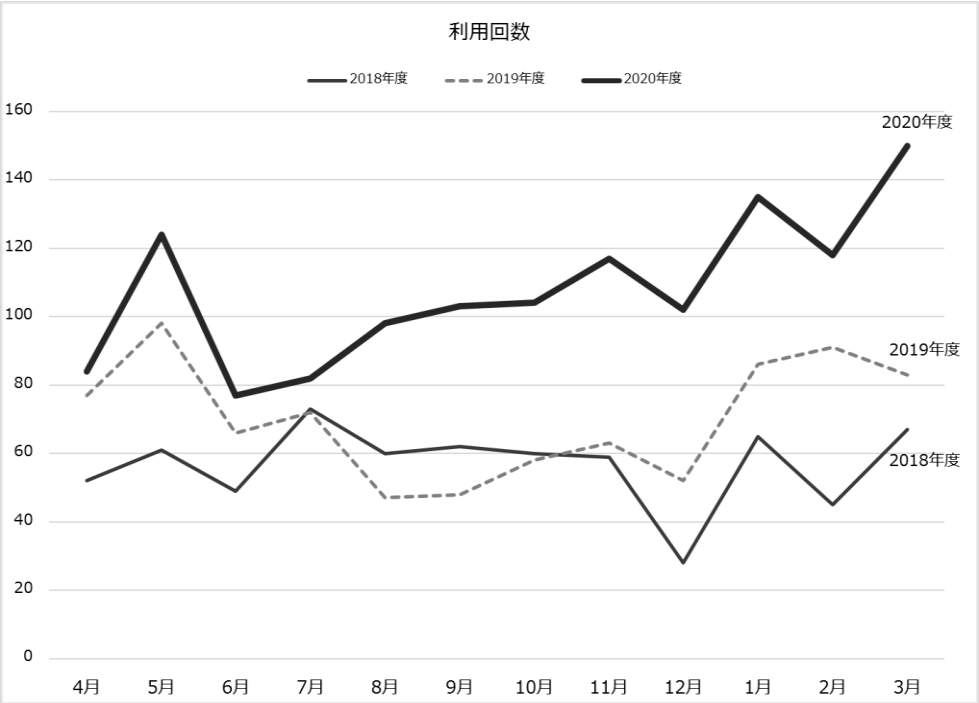
「とちぎボランティアネットワーク独立型社会福祉士事務所」として総合相談支援を行い、行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなど数多くの支援実績を積むことができた。今期の支援件数は495件（世帯）のべ1298回と、回数は**前期の1.57倍**になった。「個別ＳＯＳへの対応とともに社会課題の解決を図る」部門として自立的な活動が定着しつつある。

奨学米プロジェクトは**21世帯（のべ60回）、奨学米638kg、食品549kg、野菜配送21回**となった。従来通りの活動であり支援対象世帯は増えなかった。しかし継続的な個別支援をするなかで、児童相談所や市役所の子ども家庭課との連携もできた。

表１は相談者の状況のまとめである。母子家庭など地域で定着している困窮者（世帯）への支援方策は見えてきたが宇都宮の母子家庭だけで2700世帯（推定）あり、掘り起しが必要である。また、**57％を占める単身男**性への支援方策はまだ見いだせていない。

表２では、2018年度から2020年度のフードバンク利用回数を月別に表した。2020年度は前年度、全々年度に比べどの月も利用回数が多い。増加の要因としては①コロナ禍で実際に困窮する人が増えたこと、②フードバンク自体の認知度が高まったこと、③複数回の利用者が増えたこと、つまり一度の支援では生活が立ち直らなくなっていることが考えられる。

【表２　フードバンク利用回数（月別：2018～2020年度）】



②コールセンター栃木の運営支援

今期も厚生労働省**社会的包摂ワンストップ相談支援事業**を受託する（一般社団）社会的包摂サポートセンターの「コールセンター栃木」の運営支援をした。栃木では**13人のスタッフ**で**年間2878件の電話相談**に対応した。そのうち緊急支援の必要があるものについては本会のネットワークを使って同行支援をおこなった。

③ユニバーサル就労研究会

本会、ふれあいコープ、とちぎコープの３者を中心に、労働者協同組合、独立型社会福祉士事務所、弁護士などを加えて、2019年９月からユニバーサル就労研究会を毎月１回開催したが、今期は４月からのコロナ対応のため年末まで休止し、１月から再開した。現在は、来期９月に**ユニバーサル就労ネットワーク栃木（仮称）**の開設に向けて準備中である。**ネットワークは「中間的就労事業所」を県内に増やしていく**ために企業・事業所への営業を行う中間支援団体である。本会の独自財源をもとに、企業・事業所からの出向の営業担当者を迎えて、2021年９月の事業開始を目指す。

1/26：矢野・小澤、コープ/大島・菊池、ふれあい/渡辺・加藤・竹内、佐藤
2/23：矢野・小澤、コープ/大島・菊池、ふれあいコープ/竹内、渡辺、佐藤
3/30：矢野・小澤、コープ/大島・菊池、ふれあいコープ/菊池・渡辺・竹内、服部

（２）ボランティア・コーディネーション事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

①キャンプで救う子どもの貧困、Vレンジャー

「キャンプで救う子どもの貧困」をテーマに、子どもの「体験の貧困」をなくすために活動する若者ボランティアチーム、Vレンジャー。2019年夏から活動を始め２年目の活動になった。2020年度は子ども向けお便りと動画の作成（全14回：５～６月）、川遊び（８月）、芋掘り（10月）、冬企画を企画し、年間で計25回の会議をした。川遊び企画では子ども6人とボランティア12人、芋掘り企画では子ども10人とボランティア19人が参加した。芋掘り企画は農家に協力してもらうことができ、新たに人とのつながりが生まれた。冬企画は緊急事態宣言の影響で翌年度の４月に延期したが、コロナウイルス流行の影響と、年度初めで団体や子どもが忙しいこともあり、ボランティアメンバーのみでの活動となった。子ども向けの企画の他に、ボランティア募集のための活動説明会や、子ども支援団体が主催の企画へ参加もした。新聞等のメディアにも取り上げられ、活動の認知度が高まった。今年度で新しく大学１年生が４人、社会人ボランティアが３人増え、精力的に活動した。

企画名	主催	日程	外部参加者	参加者
新メンバー歓迎会	Ｖレンジャー	8/9	大人１	７人：中村、大小原、松葉、大木本、村上、宮坂、山崎
沼遊び企画	子どものとなり佐野	8/10	—	４人：大小原、村上、宮坂、小林
川遊び企画　@塩谷	Ｖレンジャー	8/29	子６、大３	９人：山崎, 村上, 中村, 小林, 宮坂, 大小原, 大木本, 松葉、矢野
稲刈り	市貝子育てネット羽ばたき		—	４人：廣居、村上、小沢、宮坂
芋掘り @さくら	Ｖレンジャー	9/22	子 10、大５	13 人：山崎, 廣居, 村上, 三上, 田中, 青木, 中村, 上野, 畑沢, 大小原, 大木本, 松葉, 小浜
春企画@塩谷	Ｖレンジャー	4/4	—	10 人:山崎, 廣居, 村上, 三上, 吉沢, 青木, 宮坂, 大小原, 大木本, 布施

（３）講師派遣事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

ボランティア活動、ＮＰＯの啓発普及のため役職員等を講師として派遣した。派遣は**11回**（聴講数のべ381人）で、講義は減少し、**5年前の116回からは10分の１に減少**した。講義内容の変化は「ＮＰＯやボランティアを学ぶ」から**「社会問題の解決への実践とその糸口を見出したい」**という求めの現れであろう。

	回	月日	講座名（内容）	主催等	場所	講師	聴衆
1	4	７/９～	国際 NPO 起業論	宇都宮大学・大学院	宇都宮	矢野	24
2	8	６/５～	「ボランティア論」	宇都宮短大	宇都宮	矢野(小澤・大木本)	80
		7/8	たかはら基金インターン事例紹介	NPO インターンシップラボ	オンライン	大木本	15
3	1	７/21	「ZOOM 助成金講座」講師（矢・大）	まちぴあ	宇都宮	矢野、大木本	10

		9/4	ボランティアについて	CRT 栃木放送	ラジオ	大木本、矢野	不明
4	1	９/６	遺贈寄付ウィーク 2020・facebook 公開セミナー出演	レガシーギフト協会	オンライン	矢野	30
5	1	９/18	フードバンク学習会	とちぎ生活協同組合	宇都宮	伊東、曽根	
		9/19	シンポ:たかはら基金インターン事例	NPO インターンシップラボ	オンライン	大木本	85
		9/25	zoom 助成金講座講師	まちぴあ	オンライン	矢野、大木本	10
6	1	10/17	田川調査・報告会	東地区自治会連合会	東地区市民セ	坪井	40
		11/7	録画助成金講座講師	コラボーレもおか	真岡	大木本	20
7	1	11/26	ＮＰＯ論（ＦＢと子どもの貧困）	独協医科大学・看護学部	壬生	矢野	120
8	1	12/26	よりそいホットライン研修会(小)	よりそいホットライン	宇都宮	小澤	15
9	1	１/23	地域チャレンジ２ｄａｙｓ	栃木県庁、スースサポーターズネットワーク			
10	1	２/６	地域づくり講座・とちコミについて」	ユースサポーターズネットワーク	宇都宮	大木本	15
11	1	2/20	「ＮＰＯとは」　内部研修講師	足尾に緑を育てる会	足尾公民館	矢野	20
12	1	3/18	きよすみふれあいサロン・ＦＢ説明会	地域包括支援セ・きよすみ	宇都宮	徳山	12
13	1	3/25	シルバー大学中央校　活動内容紹介	シルバー大学中央校	宇都宮	伊東	15

事業報告 B.【フードバンク】

(1)フードバンク事業（生活困窮者の支援）

賞味・消費期限内の食品を無償でいただき無償で配るフードバンク（ＦＢ）活動は、今期は **36.7 トンの食品受贈**があった。受贈数量の拡大は年度初めに要請したマスコミの報道の影響が大きかった。それまではほとんど寄贈が無かった企業や農協協同組合そして通販で食品を寄付してする人が増加した。

直接支援を求める人の数はＰ２に記載されている通りだが、増える相談者に対して相談支援のほかに食品配送、回収、管理ボラなどの運営スタッフを増やしていく必要がある。

月	受贈量 (kg)	寄贈量 (kg)
4 月	3832	1185
5 月	2650	1371
6 月	2753	1741
7 月	2486	2681
8 月	1795	2680
9 月	2849	1693
10 月	7286	4482
11 月	3536	2447
12 月	3910	2128
1 月	1571	2235
2 月	2188	1803
3 月	1868	1531
合計	**36,724**	**28.977**
前年 (2019)	**10,087**	**9,502**
増減	**+26,637**	**+19,475**

① 食品配布会の実施

2019 年の台風災害で実施した食品配布をコロナ禍でバイト、日雇い、非正規で就労している人の生活が苦しくなっていることで、食品配布会を対面及び宅配便を使って **9 回実施、1,156 世帯に**配布した。配布会に伴いアンケート等で大学生からはコロナ禍前は３食食べることができていたが、コロナ禍においては２食しか食べることができない人が多いことを実感した。その他外国人留学生についても困窮している人が多いことが判明した。

食品配布会：９回
1.4/4:栃木明徳会 250 ｾｯﾄ 宅配便　2.6/13 キーデザイン 113 ｾｯﾄ 手渡し　3.7/4:宇都宮城址公園 110 ｾｯﾄ 手渡し 4.8/1:ぽぽら 40 ｾｯﾄ 手渡し　5.8/28 8/29:泉が丘支所 120 ｾｯﾄ 宅配便　6.10/9 泉が丘支所 152 ｾｯﾄ 宅配便　7.10/31 泉が丘支所 120 ｾｯﾄ 手渡し 8.11/26-28 泉が丘支所 200 ｾｯﾄ 宅配便　9.1/16 泉が丘支所 51 ｾｯﾄ 宅配便

② フードドライブの実施

フードドライブの食品受口として**食品受付箱（以下：きずなボックス）**を設置するため公共施設、店舗、会社事務所、病院、寺院等の **10 か所**に設置した。一定の宣伝効果があるが、きずなボックスの食品受取は、管理する店舗の善意とボランティアによる回収が前提なので、今期はコロナ禍の影響もあり 3 か所増えたのみだった。

フードドライブ（FD）を定期的に実施した（**とちぎコープ、宇都宮市役所ゴミ減量課、ハーベストウォーク 5 回)。**また市内・光琳寺では毎月１日に境内で行うラジオ体操時にＦＤを実施した。３月は新型コロナウイル

スの影響で全部中止となった。

一方でＦＤでの食品量増加に伴い、セカンドハーベスト・ジャパンからの供給される飲料や冷凍食品など「ストック食品の優先順位が低い」ものの受け入れはほとんどしなかった。今後は、新型コロナの影響で困窮者が増えることが予想される。**倉庫、ボランティア、食品、資金の調達**が**急務**になっている。

「きずなボックス」設置場所表		
	設置場所	協力団体、企業
1	戸祭地域コミュニティセンター	戸祭地区民生・児童委員地区協議会
2	とちぎコープ　越戸店　（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合
3	とちぎコープ　おもちゃのまち店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合
4	とちぎコープ　鶴田店（サービスカウンター）	とちぎ生活協同組合
5	ヒカリ座	ヒカリ座
6	やさいくだもの村さくら店	やさいくだもの村
7	宇都宮市役所	宇都宮市役所環境部ごみ減量化
8	光琳寺本堂（毎月１日のみ）	清映山 松寿院 光琳寺
9	惠光寺	三芳山　惠光寺
10	栃木県社会福祉士会事務所	栃木県社会福祉士会（福祉プラザ３階）
11	宇都宮卸商業団地協同組合事務所	宇都宮卸商業団地協同組合
12	ＪＵ栃木事務所	ＪＵ栃木
13	ミヤラジ	(株)宇都宮コミュニティーメディア
14	さくら・ら心療内科　待合室	さくら・ら心療内科
15	医療生協　協立診療所	栃木保健医療生活協同組合
16	医療生協　ふたば診療所	栃木保健医療生活協同組合
17	はやぶさ交通事務所	はやぶさ交通㈱
18	しのいの郷	社福）房幸会
19	末日聖徒イエス・キリスト教会	末日聖徒イエス・キリスト教会
20	浄教寺	光谷山　浄教寺
21	アカデミックロード宇都宮校	アカデミックロードＡＲ
22	栃木県ボランティア活動振興センター	栃木県ボランティア活動振興センター（福祉プラザ１階）
23	宇賀神新聞店（集金日回収）	宇賀神新聞店

フードドライブ：15 回 ・毎月１日(金)光琳寺 FD(きずな BOX 設置)12 回 ・10/9：JU 栃木チャリティーオークションＦＤ（石江・徳）	・11/1：とちぎコープ越戸店ＦＤ（石江、釜、徳） ・3/21：ﾊｰﾍﾞｽﾄｳｫｰｸ（伊東、伊藤、寺田、小浜）

②ＦＢ食品の利用「奨学米プロジェクト」

学齢期の子供がいる低所得の母子家庭等に対し毎月定期的に米を提供し、浮いたお金で学用品などを買ってもらう**「奨学米プロジェクト」**を実施した。月１回の米の他に、合間に**野菜・パンの配達**もボランティアによって実施した。母子家庭のほとんどは働いているが非正規が多く、また生活・通勤に都合で自家用車を持っている場合、生活保護を受けられない。低所得のうえ社会保障の給付の枠組みから外れていて、事実上生活保護以下の暮らしをしている人も多い。

「お母さんたちは毎月定期的に支援者と話すことで困り事を言える状況が生まれ、母子家庭の孤立を防ぐことが主眼である」が、相談体制がうまく構築できず、支援世帯数も増やせていない。日夜働きづめの母との接点の時間がないことが原因である。引き続き**女性支援ボランティア等**を育成し、お母さんの悩みを聴ける体制を整える必要がある。

学齢期にある生活困窮家庭への“奨学米”プロジェクト要項	
1、目的 2010年度の国の調査では、母子家庭のうち65％が年収180万円以下であり、夫婦２人世帯の平均年収では300万円以上の差がある。また国民の相対的貧困率は16.1％であるが母子家庭の貧困率は54.3％である。様々な事情で身内や地域に頼れない人も多くフードバンクに頼れない（頼らない）人も多い。さらに2014年度に本会・フードバンク(FB)宇都宮が、女性(世帯)へ支援した割合は３割であり、非常に少ない。 こうしたことから、ＦＢうつのみやでは学齢期の子供がいる母子家庭等に対し、米による家計負担の支援を定期的に行い、同時に生活の相談を行うことで困窮母子家庭の生活支援をしていく。 母子家庭等と、本会職員・ボランティアがつながりを持つことによって、何か困った時に頼ることができる関係＝縁を作り、一緒になって解決できるようにすることが重要である。 **2、対象者** ・原則として県央地区に住む学齢期の子供がいる母子家庭等、20世帯 ・低所得（例/3人家族で月収20万円、年240万以下）の世帯であり、身内や友人にたよることが難しい世帯。 ・生活保護世帯は対象外とする。 **3、内容** ①１か月白米10-30ｋｇの支援を毎月行う。対象世帯の人数と状況を勘案し決定する。	②対象世帯数20世帯。米の確保、倉庫の課題が解決されれば対象者数の増加も検討する。 ③米保有量は4.8ｔ（10ｋｇ×12月×20世帯） ④配送方法は原則としてボランティア等が相手宅まで届ける。配送の際に相手宅の玄関をまたぐことが関係構築や状況把握の上で重要と考える。(場合によってはフードバンク事務所に本人が来ることも可とする。) ⑤配送日は原則として、火曜日13：30-17：00.対象者の都合が悪い場合は要相談。 ⑥受付はＶネット事務所（028-622-0021）で行う。 ⑦ボランティアは５人程度募集。同じ人が同じ家庭に継続的にかかわる。 ⑧保管は米で行いその都度精米する。保管場所は、当面ＦＢ大田原の倉庫とするが、宇都宮近郊で倉庫を探していく。 ⑨配送社はＦＢ所有の車両やボランティアの自家用車とする。 **4、広報** ・米募集…インターネット及び、チラシを作成しＪＡやコープ等に営業。 ・対象世帯向け…対象世帯むけのチラシを作成。ＤＶ関係ＮＰＯ、母子家庭関係者に対象世帯の選定、ピックアップの要請をする。 ・ボランティア募集…チラシの他、インターネットでの周知、本会会員・ボランティアに対しては電話、機関紙等での勧誘を行う。 （福祉プラザ、まちぴあ、ピックアップ要請団体、若者支援係の団体）

① 県内ネットワークの拡大

アルバイトがなくなった学生の支援に食品配布会（きずなセット配布）を実施した。その後、**８月１日、ＦＢ全県一斉配布会**を実施した。県北（大田原市、那須塩原市）、宇都宮市、日光市、真岡市、足利市の６か所の会場で配布をすることができ、緩やかであるが食品の供給の体制づくりの下地作りを形成することができた。総合相談のネットワーク、支援団体、福祉事業所とのネットワークもできつつありこのネットワークをどのように生かしていくのかが今後の課題となってくる。

全県配付会配布実績表(8/1実施)

	参加団体名	場所	配布人数
1	フードバンクもおか	真岡市総合福祉センター駐車場	70人
2	フードバンク県北	大田原市社会福祉協議会	17人
		那須塩原市市民活動センター	17人
3	フードバンクあしかが	フードバンクあしかが事務所	8人
4	フードバンク日光	フードバンク日光事務所	44人
5	フードバンクうつのみや	ぽ・ぽ・ら	40人

② 広報

年度当初は、前期の台風被害者の食品支援の影響で在庫が枯渇していた。４月に新聞社を中心に食品寄付の呼びかけを行ったところ、今までにない反響を呼び個人や企業、団体などからも食品を例年の２から３倍の量を受贈することができた。その後実施したきずなセットの配布も大きな反響を呼び、フードバンクの宣伝を高め一定の成功を収めることができた。情報拡散効果が強いtwtterを中心にＳＮＳでほぼ毎日の情報を更新した。フォロワー数も2000人以上になった。

⑤各拠点の事業

全拠点の特徴として、行政や社協などの支援機関を通して食品支援を実施した。

＜フードバンク県北＞支援機関の要請により食品支援の実施。毎月第２土曜日に食品配布を実施。

＜フードバンク日光＞毎月第１水曜日に会議を実施。行政からの困窮者支援依頼を中心に対応している。食品配布会を不定期に３回実施。

ＦＢ日光会議：12 回　4/1、5/6、6/3、7/1、8/5、9/2、10/7、11/4、12/2、1/6、2/3、3/3

＜フードバンク那須烏山＞行政、社協からの依頼のあった困窮者へ食品支援を中心に行った。

フードバンク(ボランティア)会議(毎週木)：49 回 4/2、4/9、4/16、4/23、4/30、5/7、5/14、5/21, 5/28、6/4、6/11、6/18　6/25、7/2、7/9、7/16、7/30、8/6、8/20、8/27、9/3、9/10	9/17、9/24、10/1、10/8、10/15、10/22、10/29、11/5、11/12, 11/19、11/26、12/3、12/10、12/18、12/24、1/7、1/14、1/21、1/28、2/4、2/10、2/18、2/25、3/4、3/11、3/18、3/25

（２）ＦＢのためのファンドレイジング（生活困窮者の支援）

①チャリティ・ウォーク県北 18 の実施

コロナ禍の中、チャリティーウォーク（ＣＷ）の実施の方策について検討し、「県北で１日だけのＣＷを実施する」ことにした。県北での身近な寄付イベントは初めてであり、コロナ感染への配慮を行いつつ、県北のＦＢスタッフ中心で事業を行った。**10 月 5 日**に「チャリティ・ウォーク県北 18」を開催した。**参加者１２０人、ボランティア 50 人、214 万円**の寄付があった。今回の実施は県北でするものの、寄付は加盟団体（FB うつのみや、FB 日光、FB 那須烏山、FB 真岡、FB 足利）にも寄付の指定ができるようにして、**全県のＦＢの合同ファンドレイジング**とした。

運営のために７月から実行委員会を組織し**実行委員会・ボランティア説明会を 12 回**実施した。天候も曇りがちの晴れで、大田原市民をはじめ、県北の人たちにＦＢの宣伝をするいい機会になった。

第８回チャリティウォーク　［ 県北 18 ］　コロナでも、県北の助け合いはフードバンクから 10/3（土）西那須野駅～大田原～黒羽　旧・東野鉄道 18 ㎞を歩く	
１、開催趣旨 フードバンク県北(那須塩原・大田原など）は、昨年 600 世帯に食品の支援をしました。今年はコロナによる解雇、失業、パートの減少が、もともと困っている家庭（病気、低年金、ひとり親、外国人等） を、さらなる生活困窮に追い込んでいます。助け合いの基本= フードバンク県北の活動を支えてください。 **２、参加できる人** （個人）: 食品５kg以上の寄贈、または定額給付金 3,000 円か 5,000 円か１ 万円以上を寄付した人 （団体）: 1 チーム３～５人。食品 20 kg以上の寄贈、または定額給付金 3 万円以上を寄付したグループ ※食品は(できれば) 多くの人から集めてください。(ほしいもの:缶詰、レトルト、麺類	※特別定額給付金の寄付も、身近な人から集めて寄付しても OK です。 **３、募集** ・参加者/70 人（団体 10 チーム、個人 : 20 人） ・ボランティア/50 人 ・協賛企業・施設/10 社。寄付金および参加者への支援飲料、食品など **４、コロナ対策** ・密にならないような野外でのイベントです。 ・直前 10 日以内に発熱した人は参加できません。申し出てください。 ・当日は検温を実施します。 ・コロナの拡がりで、予告なくイベントを中止することもあります。事前の寄付金等の返却はしません。

Ｃ．【災害救援・復興支援活動】

（１）救援・復興支援事業（災害救援事業）

①台風 19 号水害「宇都宮暮らし復興支援センター・ＤＩＹセンター」

2019 年 10 月に発生した台風 19 号水害について宇都宮市田川流域の復興支援のため、**「宇都宮くらし復興支援センター」**を泉が丘地区の老人ホームいずみ苑内に開設した。さらに日本財団からの助成を得て、「復旧支援ＤＩＹ支援センター」を開始し、車両や家の補修の工具を貸出しをアルバイト職員を配置して実施した。

2020 年４月から９月は、拠点を移して引き続き**ＤＩＹセンターのみを開設した。**コロナ禍であり、相談支援の数は多くなかったが、床下や壁への対応が６月まであった。

②台風 19 号・田川被災状況のアンケート調査

宇都宮暮らし復興支援センターでは、被害・復興状況をアンケート調査して、10 月に**田川流域の水害調査報告書（Ａ４判 60 ページ）**を作成した。住民組織に公表するとともに、自治体、マスコミへ情報提供し今後の水害のための基礎情報を提供した。全国的にもＮＰＯで、水害直後に調査を実施したことはほとんどなく、防災関係機関からは好評であった。

③復興支援活動：まけないぞうプロジェクト・復興わかめの販売

【まけないぞう】今期も東日本大震災被災地の復興支援のために「まけないぞう」の制作・販売を行った。寄付でいただいたタオルを、被災地のお母さんたちが手縫いで「ぞう」の形にした壁掛けタオルである。これを本会が買い取って販売し売上の２５％が作り手の収入になり、生きがいやコミュニティづくり、生業の支援になる。**当期は 219 頭、85,780 円**の売上となった。

【復興わかめ】東日本大震災の被災地の復興支援のため、石巻十三浜のわかめを「まけないぞう」とともに販売した。今期は **42 個、21,000 円**の売上だった。

（２）三者連携/防災についての会議・研修（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

2019 年の台風 19 号水害を契機に、県、内閣府とも「三者連携」についての会・研修が増えた。「自治体、社協、民間（NPO など）の 3 者の連携が災害救援・復興には重要だ」という認識で、「これらが災害時に発揮されるためには事前の連携が欠かせない」ということである。県の**災害ボランティア連絡会議に 2 回**出席**、内閣府の中核人材合同研修会に 2 回**、本会主催の**自主勉強会を 1 回**実施した。

また福島県事業での**復興副大臣との懇談会**や、**「福島からの避難 10 年目調査」、「原発避難 10 年目ラジオ」**も実施した（Ｐ11）

3/29(日)うつのみや復興支援センター・保育園跡地に引越し 5/21(木)福島県・10 年目の避難調査・会議(矢野２、門馬、坪井) 6/14(日)水害ＤＩＹセンター現場訪問（米山Ｖ、矢） 6/17(水)県・災害ボランティア会議(矢・君嶋・柴田、県３、ぽぽら３、県社協、日赤、共募) 6/27(土)田川駐車場（ＤＩＹセンター）の草刈（矢野、小林） 7/7(火)とちテレ取材・田川水害調査（坪井） 7/18(土)復興副大臣・懇談会(福島避難者 4 人、矢野２、門馬、副大臣５、県２)、福島県事業・調査紙検討（坪井、矢野２、門馬） 8/28(金)県・県民文化課(県 3、矢野・坪井)＆危機管理課(矢野・坪井) 9/2、「災害時の県域ＮＰＯ支援センター相互支援協定」関東ブロック ZOOM 会議(矢野・坪井他、茨城２・神奈川３、東京２、群馬３、千葉)	10/6(火)県・災害ボランティア会議（矢・坪井、推進室 2＋危機管理/角田+保健福祉/櫛田、他６人） 10/13-14(水)田川駐車場（ＤＩＹセ）引越し（矢野・坪井） 11/6（金）県庁で内閣府・三者連携担当者研修（県庁/矢野・坪井、他９人） 12/18(金)三者連携自主研修・Ｖネットで（坪井・矢野。柴田、県/３、県社協/佐藤・宮本、共募/２、土崎、町田、日赤２） 12/23(水)県庁で内閣府三者連携・担当者研修（矢・坪）、 2/19(金)３者連携会議（矢・坪、柴田、川井・櫛淵）、福島事業 ZOOM 会議（20 人） 3/7（日） 原発避難 10 年目ラジオ（①小峰・伊東、矢野、②佐々木・田中、矢野、③北村・佐藤、矢野）

（３）「とちぎＶネット災害救援ボランティア基金」（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

今期は実施しなかった。

Ｄ．【ＮＰＯ活動推進センター】

(1)ＮＰＯに関する相談・協働事業（ＮＰＯの育成事業）

①福島からの避難者支援「福島県復興支援員事業」、「福島県外避難への相談・交流・説明会事業」

福島県から「復興支援員設置事業」と「生活再建支援拠点事業」の２つの事業を受託した。栃木県内には福島からの避難者が推定1700人いるが、この世帯に対して復興支援員（非常勤２人）は避難者の訪問支援活動をした。全戸訪問した名簿で毎月２回、要継続支援３０人を対象に実施した。また広報**誌『とちぎ暮らしの手帖』**を**３回発行**した。

生活再建支援拠点事業は**避難者が来訪し相談できる窓口**として週３日開設した。今期は「原発避難10年目の調査」を実施し、避難行動、避難時の支援、現在の復興感などをアンケート調査し、**報告書（Ａ４判・40 ページ）を発刊**した。また、コロナ禍で交流会を実施できなかったため調査や避難者への取材をもとに、**コミュニティＦＢで「原発避難１０年目ラジオ」**を**３/６に３時間番組**で放送した。なお、事前予告の放送として12月から５回にわたって、みんな崖っぷちラジオで避難者５人をゲストに招き３月の予告をした。

② 委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。特に災害救援での三者連携関係が多かった。「**栃木県災害ボランティア活動連絡会議」**は２回実施、**内閣府研修会**を２回、**自主勉強会**も１回実施した（Ｐ９）

(2)ボランティアとＮＰＯに関する啓発・普及事業（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

①『とちコミＳＤＧｓ通信』『フードバンク通信』『県北通信』の発行

『隔月刊ボランティア情報』を700部、**年６回発行**した。

2019年1月から『フードバンク通信』を発行、「今月のＳＯＳ」記事を４ページを別刷りにし、編集もＦＢうつのみや内部で行なっている。**2020年1月からは『県北Ｖネット通信』**を創刊。県北のフードバンクのＳＯＳ事例を掲載した4ページ通信を発刊した。

これらの措置のうえに2021年1・２月号からは誌名を**『とちコミ・ＳＤＧｓ通信』**と変更し紙面のコンセプトを変えた。これは、とちぎコミュニティ基金とＳＤＧｓを中心にした紙媒体を「特出し」することで、情報誌購読だけの会員増加を狙ったものである。いわばＶネットの**プラットホームに「ＳＤＧｓ通信の会員」が乗った**ものである。

また、ラジオ、youtube、ＷＥＢ、ＳＮＳと**紙媒体**とを連動するようにした。職員、学生ラジオパーソナリティ、新聞切抜き隊、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員による印刷とボランティア２～３人による製本・発送で成り立っている。

今後は、ＦＢうつのみやの付録の情報誌としても使うことで、会員であるＦＢ以外にも大きな広がりが感じられるような情報提供をしていくことで、「とちコミＳＤＧｓ通信」のプラットホームとしての価値を見せていく。

月	号	特集記事		月	号	特集記事
3-4月	241	報告/サンクスＶクラブ＆中期計画お披露目会/社会系ユーチューバ―誕生		9-10月	244	報告/サンクスVクラブ秋/ＣＷ県北18/Vレンジャー夏川遊び
5-6月	242	報告/コロナ支え合い基金/コロナ除けお札/サンタdeラン/FB学生応援/県北FB配布会		11-12月	245	報告/サンタdeクリーン＆Eスポーツ/とちコミ/Vレンジャー秋芋掘り
7-8月	243	報告/コロナ基金記者会見/Vレンジャー大活躍/県内FB合同配布会		1-2月	246	報告/外国ルーツの子の貧困/とちコミ贈呈式/若者会議

②「みんな崖っぷちラジオ」の放送

ラジオ局の運営を、コミュニティＦＭ「ミヤラジ」の開局と同時に2017年3月から開始した。ラジオ学生がゲストに話を聞き、職員等がコメントするスタイルである。取材・放送・ブログ作成までを学生が臨時職員（アルバイト）として担当した。今期は学生４人（當真昇吾、藤倉理子、小熊優佳、山本桂輔）となり、前年のラジオ学生もラジオ学生会議な**どでサ**ポートに入る体制にした。年末に**「学生ラジオ学生募集説明会」**を３回実施したが、

３月までラジオ学生が1人しか集まらなかった。３月からは学生３人（田中悠斗、佐藤里奈、小浜佳凛）、社会人1人（伊東由晃）で実施している。

学生の中には**youtube動画で番組の宣伝**をし、サンタdeランでは動画も作成する者もあらわれ、**1月からはラジオ番組動画をホームページで毎回公開**することにした。

また「原発避難10年目ラジオ」という特別番組を3月に放送したが、その事前放送で５回避難者をゲストに招いた。**福島県の委託事業**の予算で実施した。

「半径８キロしか聞こえない」コミュニティＦＭは、放送の広報（ラジオ聴取）力はあまりないが、媒体作成・媒体出演者との関係性に学生が関わることで、動画配信などの新しい活動や、学生自身の成長と本会関係者の変化がある。さらに学生チーム・Ｖレンジャーや、ＦＢボランティアとの相乗効果により、かかわる学生数が10人以上となっている。学生にもＮＰＯにも有意義な出会いとなった。

【番組表】

回	月日	テーマ	ゲスト/所属	コメント、学生司会
1	4/7	「キャンプで救う子供の貧困」Ｖレンジャー	宮坂真耶（Ｖレンジャー）	曽根、藤倉
2	4/14	趣味・小物・デザインで若者支援	小菅恵子	石川、當真
3	4/21	学生ＬＧＢＴサークル	ＬＧＢＴ研究会にじみや・4人	矢野、藤倉
4	4/28	足尾に緑を育てる会	長野（足尾に緑を育てる会）	矢野、山本
5	5/5	「ビリギャル」男子の受験法	ジュリオ満（宇大・国際学部）	中野、藤倉
6	5/9	「たのしい、できる」がボランティア支援	平子めぐみ（とちぎ市民活動センターくらら）	曽根、小熊
7	5/16	観光地日光のコロナと子ども	金井聡（ＮＰＯ法人だいじょうぶ）	矢野、山本
8	5/23	コロナ・医療崩壊…なんでも質問大会	趙達来（真岡西部クリニック）	矢野、藤倉
9	6/2	崖っぷちさんから、た助っ人さんに	吉成勇一（ＮＰＯ法人ウエーブ）	徳山、山本
10	6/9	ＦＢあしかが	高沢・吉田・関口（ＦＢあしかが）	中野、小熊
11	6/16	性暴力被害者がつながった日	荻津守（性暴力被害支援センターとちエール）	矢野、藤倉
12	6/23	宇都宮空襲・沖縄戦を語り継ぐ	大野幹夫（とちぎの空襲と戦災を語り継ぐ会）、菊池蓮（宇大国際学部4年）	矢野、當真
13	6/30	コロナと向き合う外国人	本田エリザ(ＴＩＡ)、アイマン（宇大留学生）	山本、小熊
14	7/7	フードバンクしもつけ設立まで	小堀裕子/日出春（ＦＢしもつけ）	徳山、當真
15	7/14	社協の若者支援	柴田さん（那須塩原市社協）	中野、藤倉
16	7/21	災害「個人の記憶を社会の記録に」	坪井塑太郎（Vネット職員）	矢野、小熊
17	7/28	次世代への森	塚本竜也（トチギ環境未来基地）	曽根、山本
18	8/4	時間預託・助け合い	走出政視（ナルク栃木）	矢野、藤倉
19	8/11	キャリア教育	川田奈美（キャリア教育インストラクター）	中野、小熊
20	8/18	鳥獣被害	高橋俊守（宇大地域デザイン科学部）	矢野、當真
21	8/25	「キャンプで救う子供の貧困」Ｖレンジャー	大小原翔太（社会人Ｖレンジャー）	矢野、山本
22	9/1	ＦＢボランティア	大森敏臣（ＪＵ栃木）	徳山、小熊
23	9/8	不登校の子供・親支援	土橋優平（キーデザイン）	中野、當真
24	9/15	スマイル日光プロジェクト	小栗卓（成文社/日光）	矢野、山本
25	9/22	「ハマるのは一瞬、抜けるのは困難」女性ＤＡＲＣ	きずきさん（ダルク女性センターとちぎ）	藤倉、矢野
26	9/29	みんなの崖っぷち事例大会	アンケートで構成	藤倉・小熊・當真
27	10/6	宮めし応援隊＋済生会病院	ミヤ飯＋荻津(済生会ＭＳＷ)	曽根、藤倉
28	10/13	「教育機会確保法」高根沢教育長+よりそいＨＬ	小堀康典(教育長)＋横山	中野、山本
29	10/20	「アウトサイダーアート」＋いのちの電話	五味渕仁美（もうひとつの美術館）＋大橋	矢野、小熊
30	10/27	クリエイティブ・レインボー・プロジェクト	林香君（文星芸大名誉教授）	矢野、當真
31	11/3	「生協運動の目指すもの」	大島さん（とちぎコープ）	徳山、小熊
32	11/10	不登校支援 30 年	石林正男（栃木不登校を考える会）	中野、當真
33	11/17	たかはらインターン学生に聞く	君島怜奈（ＮＰＯ法人うりずんインターン）	山本、矢野
34	11/24	コロナ禍の学生インタビュー	宇大学生2人	藤倉
35	12/1	ヤングケアラー	宮坂真耶（宇大４年）	徳山、當真
36	12/8	妊婦さんからの困窮母子家庭支援	鳥飼蓬子・工藤さん（空色コアラ）	小熊
37	12/15	福島・原発避難の１０年①	佐々木茂夫（原発避難者・浪江町）	矢野、藤倉
38	12/22	ふりかえり①ラジオってどう？		山本、當真、小熊
39	12/29	ふりかえり②ラジオ１年やってみて		藤倉
40	1/5	ＦＢうつのみやの活動	伊東由晃（ＦＢうつのみや）	篠原、田中
41	1/12	キッズハウスいろどりの子ども食堂	荻野友香里(若年者支援機構)	當真、中野

42	1/19	コロナ禍の就活事情を聴いてみた	宇大学生２人	山本
43	1/26	福島・原発避難の１０年②	半谷八重子（原発避難者・双葉町）	矢野、小熊
44	2/2	社会的処方って何？	村井邦彦（村井クリニック院長）	伊東、中野
45	2/9	迷走人生と福祉の仕事の出会い	浜貴史（東京愛隣会）	徳山、田中
46	2/16	福島・原発避難の１０年③	小峰和子（原発避難者・浪江町）	矢野、伊東
47	2/23	福島・原発避難の１０年④	中山千代吉（原発避難者・富岡町）	矢野、田中
48	3/2	福島・原発避難の１０年⑤	北村雅（原発避難者・双葉町）	矢野、佐藤
49	3/9	自主夜間中学　9 月開校	田巻松雄（とちぎに夜間中学をつくり育てる会）	中野、田中
50	3/19	災害救援 20 年	君島福芳（日本災害復興学会・理事）	矢野、伊東
51	3/23	障害者の就職支援	小野（県東障害者就労支援センター）	徳山、小浜
52	3/30	つぶつぶ大学コラボ	宮ラジ・学生３人	田中

（３）震災がつなぐ全国ネットワークへの加盟・運営（ボランティアとＮＰＯに関する啓発普及等事業）

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク（略称＝震つな)」へ加盟し、役職員を同ネットワークの顧問・理事として業務にあたらせた。また３年前から全国災害ボランティア支援連絡会（ＪＶＯＡＤ）にも加盟した。

（４）ボランタリズム推進団体会議（民ボラ）の運営（ボランティアとＮＰＯに関する事業）

全国の市民活動やボランティア活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第３８回ボランタリズム推進団体会議（民ボラ)」を**7 月**に大阪で実施予定だったが、コロナのため次期に延期した。

Ｅ．【とちぎコミュニティ基金】

（トピック）

コロナの緊急事態宣言から始まったとちぎコミュニティ基金（以下とちコミ）は、**ＮＰＯに対するコロナどうするアンケート**を実施、ＮＰＯリーダー同士の情報共有をＨＰ、メーリングリスト、情報誌等で発信した。それらの分析をもとに、ＮＰＯに対して**コロナ対応事業・合同ファンドレイジング「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」**を実施した。また、**サンタ de クリーン＆ｅスポーツは、寄付月間・公式企画大賞**を受賞した。

（実績概要）

とちぎコミュニティ基金（以下とちコミ）は大きく**「プロジェクト」「助成」「合同ファンドレイジング」の 3 部門**がある。今期はプロジェクトは進まなかったが、合同ファンドレイジング（コロナ支え合い募金、サンタ de クリーン&E スポーツ）が活発になった。

５月から実施した**がんばろう栃木・コロナ支え合い募金**はＮＰＯの 13 事業でキャンペーンを呼びかけた。寄付を集めた。現在までの**寄付は 700 万円**になり３か月ごとに寄付分配を行った。

子ども SUNSUN プロジェクトは 890 万円の寄付があり、うち、サンタ de ランを**「クリーン大作戦＆e スポーツ」**と企画内容を変えて実施し、**550 万円**を合同ファンドレイジングで集めた。全国団体で行う**寄付月間公式企画大賞（196 企画中 1 位タイ）**を受賞した。助成部門の**「たかはら子ども未来基金」**は学生インターン助成として４回目の配分を行い、**8 人の大学生と 7 団体**に助成した。ゆめ基金では、新たに **3 年継続の調査助成「ゆめ・SDGｓ助成」**を創設し、３プログラムに総額 45 万円を配分した。

（１）プロジェクト（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

①子ども SUNSUN プロジェクト＝子どもの貧困撃退♡円卓会議（宇都宮）

（経緯）2017 年３月から地域の課題を解決するプロジェクトとして「子どもの貧困」をテーマに円卓会議を開催し、2017 年 10 月に調査報告を、2018 年３月に実施計画を発表した。

（2018 年）

目標数の設定と資源集め事業の立ち上げを行った。宇都宮市内の各中学校区にこども食堂、無料学習支援、居場所、フードバンクの支援拠点セットをつくることを目標とした。そのために宇都宮の概ね中学校区ごとに**地区円卓会議**を開催する計画とした。また、全体の課題を解決する場として定期円卓会議を年４回開催。９月には**清原地区子どもの貧困撃退・円卓会議が**発足し、とちぎＹＭＣＡを中心に、地区内の社会福祉施設、自治会、民生委員児童委員等とともに地域ぐるみの活動になった。また 2018 年度は市外への波及として**大田原子どもの貧困撃退円卓会議**を開催し、調査やファンドレイジング講座を開催した。ファンドレイジングとして、サンタ de ラン＆ウォークや通年の子どもＳＵＮＳＵＮメイト(月額寄付)で**総額 846 万円**を集めた。

（2019 年）

５月に**総会**を実施した。**助成金申請書/ファンドレイジング計画書**の公募を行った。定期円卓会議は 8/18「子ども食堂をもっと増やすには」のテーマでワークショップを実施し 20 人が参加した。**地区円卓会議**として、清原地区円卓会議では**子ども食堂キャラバン**を開始し、9 月には**「子ども食堂チャリティコンサート」**を地区で実施し 100 万円の寄付を集めた。宝木地区でも**宝木こども未来応援隊**が医療生協、村井クリニック、老人ホームの連携で発足し、元デーサービス施設で子ども食堂が定期的に開催されるようになった。寄付は**総額 550 万円**を集めた。

・・

（2020 年）

コロナ禍のため 5 月に緊急オンライン会議を実施し今期の活動について協議した。総会と定期円卓会議（１回）を中止し 2019 年度分助成金 92 万円を次期(2021)に配分することにした。

定期円卓会議は 2 回実施した。 １２月**「コロナ禍での子ども食堂の再開」**をリアルと ZOOM で実施。3 月には**「にほんで生きる海外につながる子どもたち」**をテーマに ZOOM で開催した。

また、12 月のサンタ de ランは「ラン」を取りやめ、**サンタ de クリーン大作成＆ｅスポーツ**として、リアルとオンラインの企画とした。今期は例年になく動画での宣伝や、学生・高校生のボランティアによる寄付集めも行われ、**過去最大の 550 万円**を集めて **13 団体に 415 万円を分配**した。

【成果と課題】

Ａ：子ども食堂、無料学習支援、訪問型病児保育、フードバンク等の動向

子ども食堂はコロナ禍で、休止や弁当配布の活動になった所が多かった。一方でコロナで新たに臨時の食堂を行う所もあり、宇都宮市内では２か所増した。本会関係では 2 月から市内中心部で**宮っ子元気食堂**が本会理事２人のコラボにより開設した。現在のところイートランド㈱の協力により毎月 2 回の弁当の提供をしているが、待っている母子家庭も多数あり、毎回好評である。自治会や民生委員の協力もあり本格的な開催準備をしている。

無料学習支援の増加はなかった。訪問型病児保育はコロナ禍で活動ができず休止状態となった。

また、9 月から市の委託で親と子の居場所事業が 2 か所開設した。今後、中学校区に 1 か所開設する方向とおもわれるため、この事業の市内への普及とネットワーク化を図ることを検討している。

フードバンクはコロナ禍であったため、注目度が高まり食品受贈量も拡大し活発に運営している。

Ｂ：寄付金の募集と配分

寄付イベントと個人寄付の 2 種がある。寄付イベント(サンタで de ラン)で **550 万円**を集めた。他に個人寄付＝クレジットカードで月額寄付（66 万円）と、個人・企業からの都度寄付（270 万円）の合計 **336 万円**の寄付があった。子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクトの**寄付総額は 886 万円**となった。

寄付の募集の前提となる数字を出すために、助成金申請書を提出してもらい目標としたが、助成金審査会もコロナで実施せず、配分金額が確定していない。また、大口寄付（発起人寄付)も、マンスリーサポーター（SUNSUN メイト）の拡大もなかった。寄付つき商品も拡大もなかった。

Ｃ：催事・講座・会議の実施日・回数

■コロナＳＵＮＳＵＮプロジェクトＺＯＯＭ会議（４回） 5/15（6 人）、5/22(7 人)、5/29(5 人)　5/30(12 人) **■定期円卓会議（２回）** 12/12「子ども食堂の復活・継続会議」16 人、トライ東で（リアル+ZOOM）	3/6「にほんで生きる海外につながる子どもたち」20 人、日々輝学園で（ZOOM） **■月例会（8 回）**4/8(7 人)、9/24(6 人)、10/29(6 人)、11/10（5 人）12/12（8 人）、1/16（7 人）、2/13（8 人）、2/27(8 人)

②「サンタｄｅクリーン大作戦＆e スポーツ」の実施

５回目のサンタ de ラン＆ウォークは、飛沫が広がる懸念からラン企画を中止した。しかし「サンタ de ランの企画が変わっても続けることが大切」という実行委員の熱い思いに押されて「クリーン大作戦＆e スポーツ」と形を変えて開催し、当日は約 300 人が集まった。実行委員会は 4 月～1 月の 10 か月間、17 回実施した。また、今回は学生の動きが活発化した。

●日光だいじょうぶで「サンタらラン」を高校生たちが企画。

●日々輝学園高校のパソコン部制作オリジナルゲームでの協賛金の集め＋当日「ぷよぷよ e スポーツトーナメント」の実施

●社会派 Youtuber によるＰＲ動画作成

	2020		2019	
預かり寄付渡先	集めた金額	配分→支払額	集めた金額	配分→支払額
とちぎVネット	802,155	838,243	958,352	1,004,951
子どものみらい応援隊	150,254	157,014	117,748	123,473
だいじょうぶ	621,402	649,358	558,983	586,163
とちぎYMCA	523,912	547,482	550,543	577,313
トチギ環境未来基地	237,200	247,871	92,230	96,715
うりずん	282,137	294,830	298,103	312,598
フードバンクうつのみや	262,646	274,462	-	-
リスマイリー	340,000	355,296	305,384	320,233
青少年の自立を支える会	31,500	32,917	61,484	64,474
きょはら食堂キャラバン	595,000	621,769	-	-
ちゅんちゅんこども食堂	30,000	31,350	-	-
県北子ども食堂連絡協議会	97,335	101,714	-	-
栃木県若年者支援機構	-	-	116,672	122,345
さくらネット小山	-	-	126,921	133,092
ビリーブ	-	-	90,610	95,016
サバイバルネットライフ	-	-	-	-
Makana食堂	-	-	-	-
キッズシェルター	-	-	-	-
計	3,973,541	4,152,308	3,277,030	3,436,373
全体に寄付	1,562,869	-	1,304,800	-
とちコミ経費	-	1,384,103	-	1,145,457
	5,536,410	5,536,411	4,581,830	4,581,830

①集めた金額⇒団体指定の寄付
②配分→支払額⇒75％分＋「全体に寄付」を按分した配分
①と②の総計金額の差異は按分で割切れないものがある。

など、各地で様々な参加と協力の輪を広がった。結果的に参加者、ボランティアは 300 人となり、会場付近を通行する人や地元の人たち、そしてコロナ渦でも支援をよびかける必要性が伝わり、大きなインパクトを与えるものとなった。

■サンタ・事前イベント、事前企画（８回） ●街頭募金 3 回 11/21-22 Ｖネット企画「サンタ de 街頭募金」87,120 円 12/12-13 Ｖネット企画「サンタ de 街頭募金」117,279 円 12/19 県北Ｖネット企画「サンタ de 街頭募金」93,472 円 ●10 月末～　オリジナルゲーム、サンタ de ランで遊ぼう（日々輝学園高校パソコン部） 【協賛：作新学院、アカデミック・ロード、共栄、柏建設】 ●10 月～ＰＲのための Youtube 動画 2 回（徹底解剖、パプリカを踊ってみた）再生回数約 900 回 ●12/1-19：ぷよぷよ e スポーツ事前トーナメント	●11-12 月：サンタ de ぬりえ×モザイクアート約 1000 人参加 ●12/20：日光で走っちゃおう！サンタらラン（高校生実行委員会）400,705 円がだいじょうぶに寄付 **■当日ボランティア説明会（２回）**12/5(15 人)、12/9(15 人) ・ポスター張り（2 回）11/８(10 人) ■実行委員会（17 回） 4/8(7 人)、4/22(14 人)、5/1(14 人)、5/27(20 人)、6/16(14 人)、7/7(12 人)、7/29(15 人)、8/20(13 人)、9/2(13 人)、9/23(16 人)、10/15(14 人)、10/31(15 人)、11/4(14 人)、11/19(17 人)、12/13(16 人)、12/15(15 人)、1/14(16 人)

（２）助成（ＮＰＯの活動資金の援助事業）

①「花王ハートポケット倶楽部・地域助成」

花王㈱の同助成金を活用しＮＰＯへ助成金を贈る地域助成を行なった。第 14 回目の助成金配分である。今年度から助成金額と団体数が見直され、20 万円 1 団体、10 万円 3 団体の 50 万円を助成することとなった。審査は 12 月 23 日の第 1 次審査で 4 団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員 1700 人の投票により 1 番票を集めた団体が 20 万円を助成することとした。**応募は 12 団体**だった。3 月 27 日に贈呈式を実施し、前期（2019 年）の助成団体の報告会も合わせて実施した。（前期の贈呈式がコロナ禍により中止となったため）

2020 年度　花王・ハートポケット倶楽部地域助成（栃木地区）
―栃木県内のＮＰＯ・市民活動団体を応援―

花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域の NPO を社員と企業で応援しています。今年は、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するＮＰＯや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。

1、助成内容
助成内容　＊2020 年度から変更しました。
・助成総額：５０万円
・助成団体数：４団体
・助成金額　・助成：20 万円＝1 団体、10 万円＝３団体

2、選考までの流れ
◎応募受付開始：10 月１日　◎応募用紙提出締切：11 月 20 日必着
◎一次選考：12 月中旬。とちぎコミュニティ基金運営委員会により６団体を選出。
◎二次選考（投票選考）：１月中旬。 花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。
◎贈呈式・レセプション：３月２日。１次審査通過団体においでいただき、贈呈式・レセプションを行います。
◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔に報告ください。

3、応募団体の条件
①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに１年以上継続的に行っている栃木県内の NPO・市民活動団体・ボランティア団体（法人格の有無は問わない）
②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと（１年休み後の応募は可）。
※「NPO データバンク（CANPAN）」への登録は必須ではありません。

4、応募・問い合わせ先
とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」
栃木県宇都宮市塙田 2-5-1 電話 028-622-0021
FAX028-623-6036　　tochicomi.org

■選考結果
★20万円　NPO法人フードバンクうつのみや
★10万円
NPO法人そらいろコアラ
マザーズガーデン子どもワクワク教室「あすなろ」
真岡児童館　やさしクラブ

■年間日程
9/25(金) 花王助成の説明会（まちぴあ主催）
11/7(土)花王助成金の説明会（コラボーレもおか主催）
12/23(水)花王助成審査会
3/27(土)とちぎのミライをつくる大会（2019 年度花王助成報告会と、2020 年度助成贈呈式、2020 年度ゆめ SDGｓ助成の贈呈式、コロナ基金の報告会

②「たかはら子ども未来基金」

2017 年から矢板市の篤志家からの寄付で「たかはら子ども未来基金」を創設し、学生インターン助成を実施した。「境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られること」が目的である。子どもの貧困に関するボランティア・NPO の活動に対し、栃木県北地域を中心に助成を行った（2017 年から 10 年間継続して寄付を受け、助成を行う予定）。

学生インターン部門には 11 団体の応募があり７団体に助成した。学生は 10 人の申込があり 8 人に助成した。なお、今年は１団体（うりずん）が特別助成枠で２人を受け入れた。

とちぎコミュニティ基金　[たかはら子ども未来基金]・学生インターン助成
（申込締切）団体：2020/7/15、学生：2020/8/10

１．たかはら子ども未来基金とは?
たかはら子ども未来基金とは､子どもや若者の未来を応援する目的で、2017 年に矢板市在住の夫妻が設立した基金です。現在、家庭の経済的困窮が要因となり、子どもや若者の「未来への可能性」を奪う様々な不利が生じています。 境遇や生育環境に関わらず、全ての子どもや若者が等しく人生を拓く機会を得られるように「たかはら子ども未来基金」が創設され、特に栃木県北地域の子どもや若者を支えていくこと

２．　2019 年度の助成事業
①学生インターン助成は、若者と NPO や市民活動団体が共に成長できる仕組みを作ることを目的としています。 学生が一定期間､NPO や市民活動団体にスタッフ見習いとして研修すること（＝インターンシッ

４．　学生インターンの内容
・学生のインターンシップ(研修)の受入を希望する団体と、NPO 活動に関心の高い学生をマッチングします。
《助成額について》
・助成額：学生に 50,000 円、団体にも 50,000 円を贈呈。
＊未来の担い手であるインターンシップの学生を育成していただく目的で、金額が変わりました。
・助成総額:800,000 円(インターン生 8 人分と団体 8 団体分)
＊１団体に２人のインターン生を受け入れていただくこともあります。
①第一次審査（団体審査）：選考基準を満たしている団体には、最大８団体程度までに、結果通知をお送りします。

プ）の活動を応援します。学生に一定期間、奨励金を渡し活動することによって、若者の積極的な参加を促し、若者世代の継続的な応援者を増やすことを目標とします。学生の中には、奨学金の事情やアルバイトのために、ボランティア活動ができない学生がおり、 そのような学生を応援する目的でこの部門が設立されました。 また、今年度は学生を受け入れることで、日常業務のサポートだけでなく、特に既存の事業の発展や新規の事業の立上げを行える団体に助成します。

３． 対象団体

① 子どもの食事と居場所を支える活動をする団体
例)こども食堂の運営支援、新規設立支援。
② 子どもの学習を支える活動をする団体
例)無料学習支援、学びなおしの支援。学用品の物品支援など。
③ 子どもの体験を支える活動をする団体
例)自然体験や文化体験などの子どもの心の成長を支える活動を支援。
④ 若者の社会参加や就労、生活を支える活動をする団体
例)若者の居場所づくりや就労訓練プログラムを支える活動を支援。困窮学生支援。
⑤ その他、子どもや若者の未来をつくる活動を支える団体
例)環境分野の団体で、子どもへの自然体験活動を行っている団体、
国際協力分野の団体だが、若者の国際交流活動を行っている団体など。

(1)助成する団体の条件
・営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに 1 年以上継続的に行っている栃木県内の NPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない)
・県南をのぞく、栃木県内全域を対象とし、特に県北の活動団体を優先して助成します。
・対象となる市町：矢板市、塩谷町、高根沢町、さくら市、大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町、那須烏山市 、宇都宮市、上三川町、壬生町、日光市、鹿沼市、芳賀町、市貝町、益子町、茂木町、真岡市(該当する地域に事務所がある団体か、地域で活動している団体に助成する)

(2)選考基準

１、子どもや若者の未来の可能性を本気で応援したい団体
２、地域で必要とされ、一般の人に開かれて参加できる活動
３、助成を受けることで、活動の基盤を強化できる団体
４、学生インターンを受けいれる体制が整っている団体
５、学生とともに既存の事業の発展や新規の事業の立ちあげを行える団体

②二次審査（学生審査）：選考基準を満たす学生はマッチングに進みます。
③マッチング手順
A 団体にすでに関わっている学生がおり、このインターンシップの仕組みを活用したい場合は、そのマッチングを優先。(学生にも申込みフォームから申込みいただきます)
B 団体に候補となる学生がおらず、また、学生が申込み時点で、その団体を希望している場合、このマッチングは成立となります。
C 団体に候補となる学生がおらず、学生の希望がなかった場合、今回はマッチング不成立となります。
④マッチングを行った上で、助成限度である８人の学生以上がマッチング成立した場合、審査委員会を通して審査を行い、最大８人の学生と、８団体に最終結果通知をお送りします。
＊注意事項/第一次審査の時点で、８団体以上が選考基準に満たしている場合、②と③の（内容）

・４ヶ月間 12 日ほど(１ヶ月３日程度×４ヶ月)、団体の必要な業務や、ボランティア活動を行っていただきます。
・学生インターン生は、1 団体につき、1 人または 2 人までを助成します。
・団体からの推薦者となる学生がいる場合は、その学生を優先します。マッチングまで行い、④の最終結果通知の時点で、落選となることもあります。あらかじめご了承ください。

＊特別追加枠について
マッチングの時点で、団体への希望学生が多い場合には、団体が資金を用意すれば、学生にインターンシップに参加してもらえる「追加の枠組」です。オリエンテーションや振り返り会など、同じ枠組みで行います。
（想定される例１）→学生２人が団体 A にインターンを希望し、１人は助成金が通った場合、もう１人は特別追加枠として、参加。
（想定される例２）→学生１人が団体 B にインターンを希望したが、基金で通らなかった。だが、特別追加枠として、参加。

■選考結果

・村上茉鈴（宇都宮大学）：足尾に緑を育てる会（日光）
・君島玲菜（白鴎大学）：うりずん（宇都宮）
・大木陽菜乃（宇都宮大学）：うりずん（宇都宮）
・相馬夏妃（国際医療福祉大学）：えんがお（大田原）
・藤田はるか（宇都宮大学）：オオタカ保護基金サシバの里自然学校（市貝）
・村上朝輝（作新学院大学）：キッズシェルター（那須塩原市）
・宮本奈緒（白鴎大学）：まちづくりネットワーク笑顔（さくら）
・上野沙織（法政大学）：子ども食堂 森のこびと（鹿沼）

③「とちぎゆめ基金助成」「ゆめＳＤＧｓ助成」

ゆめ助成、ゆめＳＤＧｓ助成とも９月に応募開始し、1月に決定したが、コロナ禍で活動が思うようにできｚ、ゆめ助成は該当者なしであった。いっぽう、ＳＤＧｓ助成は調査助成＋運営助成（2年）と珍しい助成プログラムだったが４件の応募がありうち３件を採択した。

2020とちぎゆめ基金　「持続可能な地域づくり・ＳＤＧｓ助成」締切　12/25	
１、主旨 この助成は、持続可能な地域社会を作るために、複数の主体が参加して協働する地域課題解決の調査や実施に対して助成を行います。(1年目は調査助成のみ) 国連が決めた「持続可能な社会づくりのための17のゴール（ＳＤＧｓ）」達成は、2030年。複数の目標を地域のみんなで取り組む協働事業の設計(調査)と実施(継続するための仕掛けづくり)のスタートを支援します。みんなで10年取り組めば、地域の課題が解決していく。みなさんの取り組みが他地域へ波及し、持続可能な社会へ変わるきっかけとなることを期待しています。	
２、対象となる事業・条件 ・３～５団体以上の協働での応募であること。 ・持続可能な地域社会づくりの企てで、調査、人材育成、「継続する仕組み作り」に取組む内容であること。 **３、伴走支援：**必要に応じてとちぎコミュニティ基金が伴走支援をします。 **４、助成期間：2020年4月1日～2021年3月31日** **５、助成金額・件数：**総額50万円 (1)調査助成：１事業10～15万円×３団体程度 (2)継続するための仕掛けづくり助成(２年目以降):10～20万円×２団体程度 ※今年度は(1)調査助成のみ募集 **６、報告書・成果物** 調査助成の場合には、報告書等の成果物、イベント等の開催実績報告書が必要です。	**７、応募について** (1)応募資格：栃木県内で対象事業を行うボランティアグループ、NPO、社会福祉施設、学校、住民組織等（※営利/非営利、法人格不問） (2)応募方法:①応募申請書(所定の様式)に必要事項を記入の上、郵送かメーで。②応募要項・応募申請書はホームページからダウンロード (3)締切：2019年12月25日（水） (4)選考方法と選考基準 ①とちぎゆめ基金・運営委員等からなる選考委員会で決定します。 ②複数団体による応募を優先します ③地域・地方の複数の課題について、多様な主体が協働して課題解決するとともに、地域社会(全体)の持続可能性（SDGｓ）への促しを進めるもの。 ④広義の福祉を中心とした応募を優先します。 ⑤波及効果があるもの、他地域、後続団体が真似していけるもの。 ⑥選考結果の発表：2020年1月末、文書で連絡。

④「がんばろう栃木！募金」台風19号復興ボランティア支援

今年は助成を実施しなかった。

（３）合同ファンドレイジング（ＮＰＯの活動資金の援助事業

①「がんばろう栃木！コロナ支え合い募金」

コロナ禍における支援を強化するために、合同寄付キャンペーンを５月から開始し、13のプログラムのＮＰＯ法人とともに寄付を募集している（期間は2022年3月末)。現在**7,113,941円(233件**)の寄付があり、３か月ごとに寄付の配分をした。また、全国のコミュニティ財団と連携して、**「４７コロナ基金」**を開設し募金のよびかけを行った。

●コロナ対策プログラム（ＮＰＯ）募集要項 栃木でがんばる NPO などの「コロナ対策プログラム」を募集しています。一緒にプログラムを創り、育てましょう。目標プログラム数は 30 個！ とちコミ特設ページで、一緒に寄付を呼びかけて、この非常事態を乗り越えましょう！ １、参加できる団体 ・栃木県内で活動する NPO ならどこでも。(法人格を問いません) ・たとえば、子どものオンライン学習を支える、耕作放棄地を使った体験活動、リフレッシュできる機会をつくる、食を支える　などなど、この非常事態を乗り切るいろいろなアイディアを募集します。	２、合同で寄付を呼びかけるメリット ・認定 NPO 法人への寄付となり、寄付した方が税制控除を受けられます。 ・一緒に呼びかけることで、より多くの人に活動を伝え、共感者を増やすきっかけになります。 ３、寄付の集め方 ・寄付者が、応援したい団体を指定して寄付します。 ・寄付の申込みは、クレジットカードと郵便振替からとします。 ・集まった寄付からとちぎコミュニティ基金の事務局経費（20%）を引いた金額をすべて各団体にお届けします。 ・なるべく１団体 125 万円を目標として寄付を呼びかけてください。(100 万円は団体に、25 万円は事務局経費)

■寄付総額（2021/3 月末）7,113,941 円(233 人) N）だいじょうぶ 450,057 円 N）うりずん 427,657 円 N）トチギ環境未来基地 306,857 円 N）オオタカ保護基金「サシバの里自然学校」298,857 円	一社）栃木県若年者支援機構 313,257 円 N）チャレンジドコミュニティ 397,257 円 N）FB うつのみや 1,288,701 円 公財）とちぎＹＭＣＡ306,857 一社）えんがお 310,857 円	N）キーデザイン 281,490 N）アニマルセラピー協会 219,890 円 N）そらいろコアラ 545,437 円 N）もうひとつの美術館 211,890 円

②サンタdeクリーン大作戦＆eスポーツ

前述Ｐ14の通り、子どもＳＵＮＳＵＮプロジェクトの一貫として実施した。

Ｆ．【とちぎ県北ボランティアネットワーク】

（概況）2020 年度は新拠点に移転し、新しく活動を再開しようとした矢先にコロナの緊急事態宣言となり、フードバンク以外の活動がほぼ制限された。常勤スタッフ体制も見直し週２日の本部からの通いの体制とした（6 月まで）。さらに７月からは週１日の通い体制とした。ボランティアベースでの運営となり、各**事業ごと、日々の連絡、意思決定が滞りがち**になったが、一方で**フードバンク県北**は**ケース記録（相談表）の入力の分業化**をおこない、これまで個人がやってきた記録を皆が共有できるようにした。さらに、**ＦＢ食品の定期配布会**を９月から開催するとともに、**『県北通信+県北ＦＢ通信』**を発刊した。

子どもへの支援は、**学習ルーム、子ども食堂、ママカフェ等が 6 月まで休止**（または弁当配布）、その後徐々に再開したが、い**まだに完全な再開には至っていない**。ボランティアベースで運営するため、県北事務所内に**「スマイルハウス会」を新たに設立**し、こども食堂・地域食堂、学習支援、ママカフェなどを本会県北事務所と共同運営している。今期は**コロナ禍で「対面」活動ができず、新規のボランティアも、子どもも、地域の人も増えなかった。**また、県北事務所全体とのすり合わせが十分でなく、**各事業の将来像が見えていないのが課題である**

（１）生活困窮者支援

①フードバンク県北

フードバンク県北では、2020 年度は **7.8 トンを受贈**、うち **5.4 トン（573 件）を生活困窮者に寄贈**した。コロナ禍であり、イベント等の参加はできなかったが、8 月の FB 県内一斉食品配布会を契機に、毎月第２日曜日に定期食品配布会を行った

10 月の「チャリティウォーク県北 18」以降はフードバンク県北の知名度が向上して、昨年の２倍の規模の食品を受贈した。支援件数は 47.3 件/月（前年比＋14 件）、提供量は 640 kg/月（前年比 212%）になった。**支援先は那須塩原市が多かった**。困窮者の相談は社会福祉協議会を通じて寄せられるケースが多いが、行政機関からの紹介や**直接来所も増加**した。

2019年度

	入庫			出庫		
月	件数	数量	重量kg	件数	数量	重量kg
４月	20	137	184.9	48	345	250.8
５月	15	116	152.1	40	222	271.6
６月	23	407	254.1	31	232	174.8
７月	17	130	231.1	39	247	278.3
８月	32	755	296.6	24	126	122.1
９月	34	355	705.4	36	390	426.3
10月	53	474	569.8	39	450	506.3
11月	31	252	285.2	29	228	209.6
12月	39	297	233.3	25	235	198.0
１月	32	219	232.3	25	262	232.8
２月	28	700	693.1	27	234	263.8
３月	1	4	0.6	41	651	920.2
合計	**325**	**3846**	**3838.5**	**404**	**3622**	**3854.6**
月平均	27.1	320.5	319.9	33.7	301.8	321.2
前年比	100.9	71.9	92.3	100.2	93.9	86.8

2020年度

	入庫			出庫		
月度	件数	数量	重量kg	件数	数量	重量kg
４月	14	633	397.0	55	589	339.0
５月	11	1276	589.6	35	369	462.0
６月	24	720	420.8	32	355	321.5
７月	21	351	406.8	25	324	191.6
８月	42	640	335.8	68	1440	654.1
９月	48	570	698.6	50	497	379.0
10月	50	825	1496.5	46	651	487.2
11月	20	87	448.8	41	452	459.5
12月	51	1015	1389.1	53	687	513.8
１月	32	426	458.6	46	573	374.0
２月	27	1464	755.2	63	753	610.4
３月	39	888	453.6	59	990	611.4
合計	**379**	**8895**	**7850.4**	**573**	**7680**	**5403.5**
月平均	31.6	741.3	654.2	47.8	640.0	450.3
前年比	116.6%	231.3%	204.5%	141.8%	212.0%	140.2%

（２）子どもと親の困窮対策

①「子ども食堂」の運営と「学習支援」

やまのてこども食堂は、新拠点に移動してから、**子どもサロン**（毎週火）、**地域サロン**(毎週金)と名称を変更して開催した。子ども食堂は貧困家庭のためのものという偏見があり、食堂から「サロン」に変えた。また、地域の人たちにも来てほしいので**子どもも地域の人も来られる**ように対象・目的を曜日で分けた。子どもサロンは、学習支援を主眼に実施するので給食会社㈱那須ココの協力でおかずの提供を受けた。

今期はコロナ禍であり、両サロンはすべて弁当で対応した。４月中旬から５月は、子どもサロン、地域サロン、学習支援は開催しなかった。６月に再開し年間で **89 回**実施、**のべ 903 人**（食）、**1 回あたり 11 人の利用**があった。**ボランティアものべ 471 人（1**

地域サロン・子どもサロン・学習支援報告　　2020年4-2021年3月

月	実施数	子どもサロン 利用数（食）	子どもサロン ボランティア数	地域サロン 利用数（食）	地域サロン ボランティア数	学習支援 人数	学習支援 ボランティア数	利用者計	ボランティア計	備考
4月	2回	23	10					23	10	地域サロン、学習支援はコロナで休止、子どもサロンは隔週で弁当配達
5月	0回							0	0	コロナで休止
6月	9回	35	28	46	14	19	12	100	54	弁当
7月	9回	41	17	34	18	30	23	105	58	弁当
8月	8回	49	17	26	12	25	22	100	51	弁当
9月	9回	59	18	35	18	23	26	117	62	弁当
10月	9回	56	26	43	20	24	15	123	61	弁当
11月	7回	38	20	12	16	14	11	64	47	弁当
12月	9回	54	28	30	22	10	11	94	61	弁当
1月	6回	43	8	15	6	0	0	58	14	弁当
2月	7回	42	9	20	12	2	2	64	23	弁当
3月	9回	66	14	20	12	4	4	90	30	弁当
計	84回	506	195	281	150	151	126	938	471	

回に５～６人)、うち学習支援ボランティアは１回に１～２人であった。コロナ第３派の 12 月～３月も学習支援は実施できなかった。

② 「パパ・ママカフェ」と FB の相談支援

2019 年 2 月から**学校を休みがちな子どもたちや、閉じこもりがちな親子を対象に「ママカフェ」を開催してきた**。今期はコロナ禍で利用がほとんどなかった。3 月からは「パパ・ママカフェ」と名称変更し毎月第４土曜日に実施している。FB やこども食堂利用者は、話し相手がいなくて孤立している父母が多く「話したい」人が多い。

また、FB 利用者への相談支援は、2001 年３月から毎月第 2 土曜の FB 食品定期配布会のときに、宇都宮事務所の相談支援員が出張して実施した。県北地域は困窮状態から脱することがなかなかできない家庭が多い。ケース記録によるアセスメント（評価）を実施し制度の利用とともに、継続的な支援と本人たちの成長・変化を促す伴走支援が必要である。そのためには、専門性のある人材の確保と支援ノウハウの伝授、FB・子ども食堂のスタッフによる個別ケースの共有化の必要がある。

３．事業報告【その他の事業】

実施しなかった。

４．財政・組織運営

(１)会員

会員数は**518人（団体27、支持190、賛助303)**、会費は**206万円**になった。会員数はほぼ横ばい状態である。会費収入は昨年より＋10万円である。

通常の会員拡大の方策は、①団体会員などの新規会員の拡大、②現会員の継続の２つである。会費の振り込み手続きが面倒であることも予想され、**「ついつい未納」**になることが多い。**クレジットカード**での振り込み（ホームページから手続き)、会員総会、Ｖネットの集い等で**現金で納入**できることも周知している。更に会員更新のお知らせやお礼状を郵送で送ったことも未納者や退会者を最小限に抑えている。

会員拡大は事務局の職員が中心に行うことが多く､声をかける人が限定されているのも会員増加につながっていない、会員になる目的をもっと打ち出せるようにしなければならない。

対応策として従来の人を集める手法に代わる活動を打ち出し、ネット環境を使い多くの人と接点を増やす。また、とちコミの事業やフードバンクなど**ボランティアやファンドレイジングと連動した活動**にするように事業を変えている。

(２)寄付

年間寄付額は 2,673 万円になった（前期 1,960 万円)。今期はコロナ過等の臨時の寄付が多かった。SUNSUN プロジェクトの活動がコロナ禍により停滞した分、新型コロナに関した寄付金が増えた。

とちコミの助成**「たかはら子ども未来基金」に継続的に拠出する寄付（毎年 100 万円）**があった。

また､ＮＰＯ法人会計基準によるボランティアの活動時間を｢ボランティアによる役務の提供の評価額｣とし、

最低賃金で換算して寄付として充当した。今期は**ボランティア活動評価益は 295 万円**となり前期より 46 万円増加した。

現在の寄付金の項目は以下の通り。

<table>
<tr><td>①　一般寄付</td><td>通常の寄付（災害救援ベンダーの寄付も含む）</td><td rowspan="6">銀行引落し
年 1 回とマンスリーサポーター（毎月引落）の方法が選べる。</td><td rowspan="6">オンライン寄付
ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる</td></tr>
<tr><td>②　年末年始募金</td><td>年末年始のキャンペーン時の寄付。12 月 1 日～1 月末まで</td></tr>
<tr><td>③災害救援ボランティア基金</td><td>災害救援目的の寄付</td></tr>
<tr><td>④コロナ支えあい基金</td><td>コロナ禍に取り組む団体への寄付</td></tr>
<tr><td>⑤サンクスＶクラブ</td><td>Ｖネット“後援会”寄付金(後述)</td></tr>
<tr><td>⑥フードバンク寄付</td><td>フードバンク事業に対する寄付</td></tr>
<tr><td>⑦プレミアム寄付コース</td><td colspan="3">Ａ：SOS を出している人の人生寄り添いコース：50,000 円　Ｂ：創意工夫のある郷土づくりコース：100,000 円</td></tr>
<tr><td>⑧とちぎコミュニティ基金</td><td>「とちコミ」のメイン寄付。認定ＮＰＯ法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている
①とちコミ寄付　②SUNSUN プロジェクト寄付</td><td colspan="2">オンライン寄付
ホームページからクレジット決済ができる。マンスリーサポーターになれる</td></tr>
</table>

（３）事業収入

受託事業収入は718万円と昨年より71万円増えた。また**助成金は311,00万円**となった。

バランスのとれた財源構成が重要だが、安定した委託事業等はない。大局的には社会的苦難な状況の時こそ存在意義を発揮し、本来事業を伸ばすことが必要である。寄付をのばすなど、中期計画に沿った努力が必要である。

（４）組織

①会員総会

支持会員・団体会員による会員総会は 5 月 31 日に実施した。

定期会員総会は 132 人出席（うち委任状 117 人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。また本会員総会に先立って、5 月 23 日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

②来年どうするか会議（創出会議）、ボランティアの出番ですよ会議（予算会議）

本会職員とボランティアスタッフを集め来年度の事業を考える**来年どうするか会議**をワールドカフェ方式で開催した。部門を超えて人が交わることで新たなアイデアやチーム（泉が丘おたすけ隊）を生み出すきっかけになった。来年どうするか会議に続き、必要な予算を話し合うために**ボランティアの出番ですよ**会議を実施した。予算の話よりも事業とボランティアのマッチングが主体の会議になった。

月日	会議名/出席人数
11/21	来年どうするか会議　/　23人　（進行：矢野）
2/27	ボランティアの出番ですよ会議　/ 20人　（進行：藤咲）

③理事会

理事会を５回開催した。

月日	議題/出席者
5/23　監査	菅又、趙
5/31　第 1 回理事会	①　2019 年度事業報告・決算について　②　理事の退任、新理事の就任について 矢野、二見、徳山、藤田、大金、柴田、飯島、大木本
5/31　第 2 回理事会	①　理事長の選任について　/矢野、徳山、藤田、大金、柴田、飯島、大木本、山本、荻津
11/5　第 3 回理事会	①　上半期の事業報告について　/矢野、荻津、徳山、大木本、飯島、大金、藤田、高久
1/29　第 4 回理事会	①　規定について　/矢野、中野、藤田、大金、柴田、徳山、大木本、飯島、荻津
3/31　第 5 回理事会	①　2021 事業計画・予算について　/矢野、徳山、大金、塚本、藤田、大木本、廣瀬、飯島、荻津

⑤職員会議・ケース検討会

第２・４水曜10時から、**職員会議**を毎月２回開催した。うち１回は運営委員会とした。総合相談支援センター運営の情報共有と事業執行についての会議をおこなった。**ケース検討会**は第１・第３水曜に総合相談支援センターのケースの情報共有を行った。対面だけでなく、zoomでも参加できるようにした。

●運営委員会・職員会議	4/8、4/22、5/13、5/27、6/24、7/8、7/22、8/12、8/26、9/9、9/23、10/14、10/28、11/9、11/25、12/9、12/23、1/13、1/27、2/10、2/24、3/10、3/24
●ケース検討会：4/1、4/15、5/20、6/2、6/17、７/1、7/15、8/5、8/19、9/2、9/16,10/7、10/21、11/2、11/18、12/2、12/16、1/6、1/20、2/3、2/17、3/3、3/17	

⑥若者会議、Ｖレンジャー

（ア）若者会議

Vネットに関わる学生や若者ボランティアが増えたことを受け、交流や新たな活動の創出を目的に、若者を大賞に会議をおこなった。ラジオ学生やVレンジャー、フードバンクのボランティア等が計15人参加した。積極的に行動する同年代の話を聞いたり、ボランティアや子どもの貧困について話し合ったりすることで、「自分ももっと視野を広げて行動したい」、「ボランティアに対する見方を共有できた」などの感想を聞くことができた。

日時	内容	参加者
１/16	第１部　先輩に聞く「Vネットと私」体験談 第２部　ボランティアとは〇〇だ！WS 第３部　フードバンクと子どもの貧困勉強会	計15人参加 〈対面〉宮坂、松葉、山崎、村上、田中、大小原、三上、中村、廣居、大木本 〈zoom〉佐藤、藤倉、木原、佐藤、他1人

（イ）Vレンジャー

Vレンジャー会議は月に２～３回おこなった。企画についての打ち合わせや、企画直前は準備をおこなった。さらに、会議の他に親睦を深めるための時間を設けたり、新メンバーが参加した際は随時活動の紹介をしたりした。

月　/回数	詳細
４月　会議４回	4/1会議（小林、棚網、阿部、小沢、大木本）、4/9会議打合せ（小林、大木本、矢野、宮坂）、4/15会議（小林、中村、山崎、浅野、大木本、松葉、並木、小沢、矢野、左雲、宮坂）、4/22会議（小沢、小林、山崎、宮坂、松葉、大木本）
５月　会議３回	5/2会議（小林、山崎、小沢、中村、田中、大木本、松葉、宮坂）、5/16会議（小林、田中、山崎、小沢、中村、松葉、大木本、宮坂）、5/30会議（中村、山崎、小沢、小林、田中、松葉、大小原、大木本、宮坂）
６月　会議２回	6/6会議（小林、山崎、小沢、中村、田中、大木本、松葉、宮坂）、6/23会議（小林、山崎、松葉、宮坂）
７月　会議２回	7/14会議、7/28会議（小林、山崎、村上、中村、大小原、大木本、宮坂）
８月　会議６回 活動２回 企画１回	8/4会議、8/8活動説明会（宮坂、中村、大小原、村上、大木本、松葉、田中、山崎）、8/9トチギ環境未来基地竹伐採ボラ(3人)、8/10AM)竹の水鉄砲つくり(田中、大小原、上野、小林、村上、宮坂)こどものとなり佐野ボラ(4人)、8/21会議（小林、中村、山崎、小沢、村上、大木本、松葉、宮坂、廣井）、8/25会議（中村、山崎、村上、宮坂、小林、大小原、松葉、大木本）、8/27会議、8/28会議、8/29子どもデイキャンプ@塩谷
９月　会議２回 活動１回	9/8 会議（松葉、大小原、中村、佐々木、村上、大木本）、9/22 いちかい子育てネット羽ばたき・稲刈り（村上、小澤、廣井、宮坂）、9/29 会議（大小原、村上、廣井、大木本、山崎、宮坂）
10月　会議２回	10/20会議、10/31会議（小浜、大小原、三上、山崎、松澤、村上、上野、畑沢、廣居、小林、大木本、宮坂）
11月　会議２回	11/12会議（伊東、大木本、大小原、中村、畑沢、廣居、三上、村上、山崎、山本）、11/27会議（宮坂、山崎、大小原、松葉、大木本、中村、村上、廣居）
12月　会議３回	12/10打合（5人）、12/11 会議（11人）、12/23会議（3人）
１月　会議２回	1/15会議（7人：山崎、村上、布施、大木本、大小原、小林、宮坂）、1/22会議（10人：山崎、廣居、村上、大小原、中村、三上、伊東、松葉、大木本、宮坂）
２月　会議３回	2/10会議（廣居、山崎、村上、布施、大木本、大小原、小林、宮坂）、2/17会議（大小原、山崎、村上、中村、廣居、宮坂、松葉、大木本）、2/26打合せ(廣居、山崎、大木本、宮坂、田中)
３月　会議２回	3/9 会議（山崎、宮坂、廣居、村上、鳴埼）、3/25会議

（５）チームの会議・活動日

①新聞切り抜き隊＋しみん情報玉手箱

…毎週水曜日１３時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム現在 3～4 人。

② フードバンク会議

…毎週木曜12:00から会議。3月からは14:00から会議となった。（詳細は、ＦＢで報告）

③サンクスＶクラブ（後援会）

サンクスＶクラブは**年間２万円以上の寄付**をいただいた人が来られる寄付感謝会である。メンバー制をとっているが、クラブ員の高齢化のため、参加が少ない。年２回の定例会（親睦会）を行う「ゆるやかな」つながりが持てる会であるが、参加方法、内容などの見直しが必要である。今期はコロナ禍であるが、感染に注意して屋上で２回開催した。

サンクス"V"クラブ　会則　2005年７月30日 （第１条）本会はサンクス"V"クラブと称する。 （第２条）本会の事務局を宇都宮市塙田２丁目５番１号とちぎボランティアネットワーク内に置く。 （第３条）本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。 （第４条）本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。	1. 寄付に関すること 2. クラブ員の親睦に関すること 3. その他、目的達成に関すること。 （第５条）本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。 （第６条）本会に次の役員を置く。 〔1〕代表　1名 〔2〕副代表1名以上	〔3〕会計　１名 （第７条）本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。 （第８条）本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。 **役員名簿** 代表:高橋昭彦さん　副代表:高木敏江さん　会計＆事務局：菊池順子
サンクスＶクラブ 9/27（24 人）、3/28（13 人）		

監査報告

2020年度の業務および、一般会計決算書、特別会計決算書は監査の結果、適正に処理されていることを報告します。

2021年　　月　　日　　監事＿＿＿＿＿＿＿＿

監事＿＿＿＿＿＿＿＿